



季刊学海

2021.4 春号

岐阜県立岐阜高等学校・校誌編集委員会

目次

終業行事（12/28）……………1	離任式（3/25）……………9
年次の和（クイズ大会）（2/5）……………3	卒業生と語る会Ⅱ（3/25）……………18
卒業式（3/1）……………5	グローバルリーダー養成事業……………18
終業式（3/25）……………8	

～令和2年度～

◆■12月28日（月）

■終業行事

問題を見つける力

校長 折戸 敏仁

令和2年も年末間近となり、今年度も9ヶ月が過ぎようとしています。また、これで年度の4分の3が終わろうとしています。

いつも話していることではありますが、高校生活全体を見渡し、これまでの道のりを振り返り、今後の道のりを見直す、ということは、1,000日余りの高校生活において、自分の計画をうまく進め、より良い結果を得る上で重要なことです。年末を迎えた今、再度、自分のこれからを確認してみてください。

さて、少し前の話になりますが、9月23日の朝日新聞に、東京大学宇宙線研究所の所長である梶田隆章さんが、国際学生科学技術フェアの日本代表にオンラインで講演をされた際の記事がありました。梶田先生は、スーパーカミオカンデで素粒子ニュートリノを観測し、質量が無いとされていたニュートリノに質量が有ることを証明したことで、宇宙の成り立ちや物質の起源を解明するのに影響を与えたとして2015年にノーベル物理学賞を受

賞された方です。

その講演で、梶田先生はこんなことを話しておられます。

納得がいくまで調べて、初めて論文にまとめるのが基本。時間を気にせず調べる経験をしてほしい。自分の思うことをやり抜く力、大切なものに出会った時にそれを見抜く力も身に付けてほしい。問題を解く力だけではなく、問題を見つける力も重要だ。

年が明けると三年次生の皆さんは大学入学共通テストが目前です。二年次生、一年次生の皆さんはそれぞれ1年後、2年後に同様の時期が訪れます。三年次生の皆さんは、大学でこんなことを研究したい、という思いを持って今、学習を進めていることと思います。

本校におけるFPTの時間、あるいはグローバルリーダー養成事業としての様々な講演、体験などは「問題を解く力だけではなく、問題を見つける力」へとつながっていくものだと私は考えています。こうした視点で今後の活動への取り組みを見直すことも、皆さんが自分の将来を考える上で有効ではないかと思っています。

最後に、新型コロナウイルス感染症の拡大は、いまだ終息が見えない状況です。こうした中、皆さんが毎日高い意識を持って健康管理に努めていてくれることに感謝します。これは現状の理解と行動が伴って初めてできることです。短い期間ではありますが、冬季休業を自らの計画により充実させ、1月4日に元気な顔で登校してくれることを期待しています。

コロナハラスメントの防止について

生徒指導部長 杉山 晴美

現在、新型コロナウイルス感染症の第3波の最中で、皆さんは感染拡大防止のために日々努力してくれていることと思いますが、今日はコロナハラスメントの防止についてお願いをします。

今、新型コロナウイルス感染症に関して、世の中では、あってはならない差別が起きています。それは医療従事者や、感染してしまった方や、その家族に対しての差別です。医療現場で働いていた看護師の方が感染し、回復した後も周囲からの偏見に苦しんで、退職を余儀なくされたといった事例を先日新聞で読みました。また、感染した人が、インターネット上で名指しにされたり、誹謗中傷を受けたりということも、頻繁に起きているようです。

この感染症に感染しないために、私たちは最大限の注意を払って行動しなければなりません。しかし、いくら注意していても、感染してしまうということは誰にでも起こり得ます。自分が感染者の立場だったらどうか、また、どのような支えを必要とするかを、一人一人が考えなければなりません。

岐阜県では、「ストップ・コロナハラスメント宣言」を出して、この感染症にかかわる差別の防止に取り組んでいます。そして、次のように宣言しています。

感染した方を「思いやり」、その立場を守ります。また、最前線で治療や社会生活

維持にあたる医療従事者や関係者の方に「感謝」します。

今年度、学校では毎月「心のアンケート」を実施し、その中で、新型コロナウイルス感染症に関して、SNS上で嫌な思いをしているなど、被害を受けていませんか、と尋ねています。さいわい本校では被害の報告はありません。しかしこの先、新型コロナウイルス感染症や、またそれ以外のことに関しても差別や嫌がらせなどがあれば、必ず家族や先生に相談してください。自分のことでなくとも、周りに困っている人がいるのに気付いた時も、ためらわずに相談してください。学校はそのような差別や嫌がらせは許さず、対処します。

明日から冬休みです。新型コロナウイルスに感染しないよう、注意して行動し、県の宣言にあるように、思いやりと深い感謝の気持ちを持って過ごしてください。

困難に直面した時に

進路指導部長 立川 喜教

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今まで学校生活の中で普通にできたことを中止や変更せざるを得ない年となりました。冬休みは短期間ではありますが、これまでの生活を振り返り、今年の反省と来年への期待を念頭に置き、新年を迎えてほしいと思います。

一年次生は、残念ながら林間学舎活動、学校祭などの例年の学校行事を経験することができませんでしたが、新しい生活様式の中、岐高での生活にも慣れたことと思います。今年を振り返り、学習面や部活動の面などでさらなる向上を目指して、自分の進路をじっくり考えてください。また、本校主催の職業・学問体験プログラム、各種セミナーなどにも積極的に参加して、視野を広げ、知識を深めてください。

二年次生は10月の年次集会で、この時期からの半年が重要な時期だということを理解してくれたことと思います。1月からは、いわ

ゆる「三年0(ゼロ)学期」と呼ばれる時期です。本格的な受験生となれるよう、模試の結果などから自分の学力を分析し、苦手教科にどのように取り組むかなどこの先1年の計画を立てて実行してください。

三年次生は、年が明けると受験本番を迎えます。大学入学共通テストを皮切りに、私立大の一般入試、国公立大の前期・後期日程試験と矢継ぎ早に行われていきます。体力とともに精神力も要求されます。今までやってきたことを信じて、強い気持ちで試験に臨んでください。不安な気持ちになっているのはあなただけではありません。苦しみは山頂の一步手前です。最後まで諦めてはいけません。皆さんの健闘を祈っています。

また、今年は受験にあたって新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、注意すべきことが多くありますので十分に気を付けてください。体調管理にも心掛けてください。

さて、みなさんは、車いすテニスの国枝慎吾選手をご存知ですか？ 先日、テレビで国枝選手の特集を見ました。今年9月の全米オープンで5年ぶり7回目の優勝を果たし、シングルス、ダブルス合わせて45回目のグランドスラム制覇を達成しています。全米オープンはコロナ後初めて開催されたパラスポーツの国際大会で、エリアを区切り選手や関係者を隔離するシステム「バブル」という条件のもと開催されました。試合会場やホテルなどの指定されたエリアからは外出禁止で、検査体制も徹底していました。その条件下での優勝でした。国枝選手は9歳の時、脊髄のがんで歩けなくなり、車いすテニスに出会ったのはその2年後でした。母の勧めで訪れた近所のテニスクラブには当時、珍しい車いすテニスのクラスがあり、その楽しさを知りました。常に現状に満足しない国枝選手は世界1位になっても技術を磨き続けました。チェアワークやトップスピンのバックハンドはそれまでの車いすテニスの常識を覆すものでした。揺

るぎない強さを誇る国枝選手ですが、競技人生最大の挫折がありました。それは2016年、右肘を痛めて手術を受け、その影響でリオパラリンピックは準々決勝敗退となったことです。しかし、国枝選手はあきらめず、野球のスイングなどを研究して、一からスイングを改造し、腕全体でラケットを振ることで肘への負担が減ったそうです。復活の陰には9年連れ添う妻のサポートもあるのですが、私は国枝選手の強靱な精神力に感銘を受けました。人は困難に直面した時に、落胆してその先のことを考えることができなかつたり、あるいは否定的に考えたり、諦めたりします。物事はすべてがうまくいくとは限らず、困難に直面した時にどのように考え、どのような行動に移すかが重要だと思います。国枝選手のように、困難に直面しても次に何ができるかを考え、行動に移すような前向きな姿勢を私たちは見習いたいものです。

最後になりますが、来年、令和3年が皆さん一人一人にとって飛躍できる年になることを願っています。

◆■2月5日(金)

■年次の和(クイズ大会)

初のオンライン開催

生徒会長

2月5日、オンラインにて年次の和として生徒会執行部主催でクイズ大会が開催されました。このクイズ大会は今年度で5回目の開催となります。

新型コロナウイルスの影響で今年度は初のオンライン開催となり、慣れない中で準備に苦労しました。それでも、多くのイベントが中止となってしまった今年度のメインイベントとして、全校の皆さんに楽しんでもらえるように執行部全員で一丸となって取り組みました。今年も例年と同じように一から問題を考えました。より生徒の皆さんに楽しんでもらえるように先生方や生徒を巻き込んだ問題

を作することを心掛けました。時間は限られていましたが、放課後に集まったり休日にオンライン会議をしたりしてより良いクイズ大会にするために準備を進めました。クイズ大会が近づくにつれ、撮影や準備で遅くまで学校に残ることが多くなり、時には執行部内で熱い議論が展開されることもありました。そんな中でも全員で協力し何とか問題を作り上げ、いずれも執行部メンバーの個性溢れる問題になりました。パワーポイントの総スライド枚数は100枚近く、データ容量は0.7GBを超え、充実した大作になったと思います。

当日は初めてのオンラインでの開催で最初からトラブルが起きてしまい、開始時間が遅れてしまいました。また、生徒の皆さんの表情が見えない状態での司会は思った以上にやりづらく、進行がグダグダになってしまった部分もあったと思います。それでも何人かが教室周りを巡回し、教室の様子や反応を確認しながら進行を進めました。今年で新たな課題が見つかったのも、そこは来年度に引き継いでもらえたらなと思います。

私自身は教室の様子を直接見ることはできませんでしたが、盛り上っていたみたいでとても嬉しいです。特に先生方に川柳を作ってもらった問題は反響が大きく、岐高の先生方は愛されているなと思いました。問題に添えた先生方の写真には先生方の個性が溢れており、楽しんでもらえたと思います。また、一からネタを考えた漫才も盛り上がりました。一切妥協せず何度もネタを練り直し何テイクも撮影を繰り返した、一番時間をかけた問題なので、好評でとても嬉しかったです。理科の実験や英語のスピーチ、数学の全校アンケートの問題では、各教室内で熱心に議論する姿が見られました。

クイズ大会終了後には多くの友人から「楽しかった」「面白かった」という声をもらえて、今回のクイズ大会を楽しんでもらえたと確信しています。準備は大変でしたが、心から頑

張って良かった、生徒会をやっていて良かったと思いました。

今回のクイズ大会は周りの協力がなければ絶対に開催できなかったものです。サポートしてくださった先生方、参加してくれた生徒の皆さん、そしてそれぞれが忙しい中、毎日のように遅くまで学校に残って準備をしてくれた執行部のメンバー、本当にありがとうございました。

工夫したポイント

生徒会会計

今年度は岐高祭がなくなり、あまりイベントがありませんでした。生徒会執行部一同力を込めたクイズ大会は楽しんでもらえたでしょうか。

今回クイズ大会を開催するにあたり特に大変だったのは、二つあります。

一つ目は、某コンビのパロディ、セイトカーイの撮影です。本番前にクイズの内容がばれないよう、たくさんの対策をしました。ほとんどの生徒が下校したのを確認してから、周りの入り口を監視で固めて撮影しました。撮影が始まる前までは生徒会室に籠ってリハーサルを重ね、カンペは暗記用のペンで真っ赤になりました。また、スーツやネクタイを用意できなかったために、裏返した学生服と赤と青のガムテープで代用したことはあまり知られていません。

二つ目は、撮影した動画の編集です。限られた時間の中での開催ということもあり、尺の決まっている動画での問題をやや多めに出しました。その中で僕が担当したのは、森先生による物理クイズ、エンディング、そしてセイトカーイです。テンポを良くするために、使うテロップはコンマ一秒で印象が変わってくるため、その調整が大変でした。エンディングでは僕が厳選したオフショットや動画内の一コマを並べました。1分の動画に1週間以上時間を費やした力作でした。当日は動画の中に散りばめた笑わせるポイントで笑い声

が聞こえると嬉しかったです。

後期生徒会にとってクイズ大会は、大きなイベントです。全校生徒の皆さんに楽しんでもらえるようたくさんの発案や工夫をしました。今回のクイズ大会を楽しんでいただき、本当にありがとうございました。

◆■3月1日（月）

■卒業式

355名が卒業証書を受領

式辞

校長 折戸 敏仁

暖かな日差しに穏やかな春の訪れが感じられる今日のこの佳き日、ここに令和2年度岐阜県立岐阜高等学校卒業証書授与式を挙げるにあたり、同窓会長木方伸一郎様、PTA 会長笠原幸治様のご臨席を賜り、ともに卒業を祝福していただきますことを心から感謝申し上げます。

ただ今、三年次生 355 名に卒業証書を授与しました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日のこの喜びは、皆さんのこれまでの努力の結果であることは言うまでもありませんが、皆さんをいつも気遣い、支えてくださったご家族や周囲の方々の励みがあったことを忘れないでください。

また、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。私たち教職員一同にとりましても、本校での3年間の学びを終え、生徒一人一人が飛躍する姿を見ることは大きな喜びです。

さて、ふりかえってみますと、卒業生の皆さんは、平成30年4月、夢と希望を胸に、輝かしい歴史と伝統を誇る本校に入学されました。私は皆さんの入学式において、高校3年間で身に付けてほしい力として三つの提案をしました。それは読書を通しての豊かな教養、様々な活動を通して得られる経験「知」、そして新しいことに挑戦する力です。以来、3年間、「百折不撓 自彊不息」の校訓のもと、毎

日の授業、部活動、「岐高祭」など様々な学校行事、また、生徒会活動などに持てる力を十二分に発揮し、挑戦、活躍をしてくださいました。

そうした中、昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大により、この1年間、皆さんはこれまでにない様々な体験をしました。これを次に生かす「経験」とできるか否かは、そこから「知」、つまり、今後の行動における知恵を導き出せるかどうかです。実際に皆さんの学校生活における行動の変容を見ていると「経験」として生かすことができていると実感しています。

いよいよ次のステージへ新たな一步を踏み出す時期となりました。皆さんはこれからそれぞれの目標達成に向けて行動してゆくことでしょう。ただし、皆さんのもつ高い夢や希望はそう簡単に実現するものではないのかもしれない。そこで、はなむけに一つの言葉を送ります。

vision and work hard

これは京都大学 iPS 細胞研究所所長の山中伸弥さんがアメリカ留学時代、研究所の所長さんから教えられたことばです。「長期的な目標を見据えて努力を続けること」です。まさに本校での皆さんの姿であり、本校の校訓に通じるものだと考えています。

卒業にあたり、今一度思い返してみてください。校訓の「百折不撓」とは、どのような困難に出会っても決して怯むことなく、限りなく挑戦し続けること、「自彊不息」とは、常に怠けず、自ら努め励むことを意味しています。

皆さんには、様々な分野で、岐阜県だけでなく、日本、あるいは世界をリードするとともに、常にふるさと岐阜を忘れることなく、どこにいても、生まれ育った岐阜に貢献することを忘れない、高い志とグローバルな視野をもって未来を切り拓いていく、まさに「グローバルリーダー」として、長期的な目標を胸に、この校訓のとおり、強い精神力を持つ

て、挑戦し続けてくれることを期待しています。力強く、自信を持って新たな一步を踏み出してください。

終わりに、私は3年間、皆さんと共に過ごしたこの充実した日々を思い起こしながら、改めて、このすばらしい皆さんとの「出会い」に感謝しています。また、私たち教職員一同は、今日まで皆さんの成長と自立にかかわることができたことを心から嬉しく思います。

これからも、心身ともに健康に過ごしていただくとともに、次のステージでなお一層飛躍されることを祈念して、式辞といたします。

祝辞

PTA 会長 笠原 幸治

皆さんご卒業おめでとうございます。今日、一人の保護者としての嬉しさは言うまでもありませんが、この席から皆さんの姿を見て頼もしさや心強さを感じます。人生100年と言われる中で、高校生活はほんの一瞬ではありますが、皆さんは立派に成長されました。これは偏に、勉強で、部活で、その他の活動で達成感や挫折感を味わいながらも皆さん自身が学び、得ることができた努力の結果です。そしてご家族や先生方はもちろん、多くの先輩、後輩、友達との交流から受けた優しさ、温かさによって育まれてきたことも忘れないでほしいと思います。卒業を機に新しい世界に羽ばたく前に今一度、お世話になった方へ感謝して頂きたいと思います。

皆さんが生まれた2002年は戦後7回目の学習指導要領が改訂され、ゆとり教育に大きく舵を切った年です。円周率は3で計算することが記載され、学力の低下を危惧し大きな話題となりました。皆さんはゆとり教育とその後の脱ゆとり教育の狭間で小学校生活を送り、英語の民間試験活用や記述式問題の導入などの大学入試制度の大改革が行われるとされた中での受験、特にこの1年は新型コロナウイルスによる突然の春休み、部活動の自粛、個別試験の中止など他の世代には類のない不

遇の生まれ年と言われる出来事がありました。皆さんは翻弄されながらも生き抜いた強い人であることに誇りを持ってほしいです。更に皆さんは来年4月1日に一斉に19才で成人となる。ちょっと変わった学年に当たることも覚えておいてください。

高校を卒業すると社会と接する機会が増えます。社会は皆さんを受け入れ、育む場となると思いますが、時に大きく牙をむくこともあります。多様性を育み長所を伸ばす教育を理念に掲げているにもかかわらず、長所をアピールする個別試験を見送る大学があるなど、コロナという社会全体の問題を前にしては、積み重ねてきた努力を足元からすくうことをリスク回避といった言葉で平気で行います。たとえこのような状況になっても負けない強い心を持つこと、本日お配りした岐高だよりに書かせて頂きました、時には逃げることも必要であります。不遇の生まれ年を生き抜いた皆さんだからこそできる受け流し、場合によっては跳ね返すしなやかさ、今はやりの言葉でいうレジリエンスを身に付けてほしいと思います。そしてそのレジリエンスの源となるのが岐阜高校卒業生のネットワークである、と毎年実は岐阜高校を卒業したPTA会長が卒業式の祝辞で述べています。私の母校には岐阜高校のように世界で活躍する様な人材はいませんでした。それぞれの分野で、第一線で活躍する友達に相談できることはあなたの財産となります。大切にしてください。

最後になりますが先生方今日まで子供達をご指導頂きありがとうございます。保護者を代表しお礼を申し上げます。保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。

送辞

在校生総代

冬の寒さも和らぎ、徐々に春らしさを感じられるようになりました。

今日の良き日に卒業を迎えられる先輩方に在校生一同、心からお祝い申し上げます。

さて、今年は誰も想像していなかった1年になりました。1年前の3月、急に決まった臨時休校は新年度まで続きました。やっと学校に行けるようになって分散登校。クラス全員で揃って授業を受けられるようになったのは6月中旬からでした。岐高祭などの行事や部活動の大会も中止になってしまいました。しかし、先輩方はそのような中でも、できることに本気で取り組まれていました。感染対策を施し、ようやく開催された球技大会の時、試合で勝つためにチームで集まって朝や昼休みに練習されていた姿が、とても強く印象に残っています。先輩方は常に行動で多くを示してくださいました。その姿勢があったからこそ、私たち後輩も励まされ頑張ることができました。また、部活動や委員会、様々な場面で先輩方は私たち後輩を導いてくださいました。その姿に憧れを抱くとともに支えてもらうことが多くありました。本当に感謝に堪えません。

そんな先輩方の門出を祝う今日この日も、新型コロナウイルス感染症の影響により、在校生は直接お祝いすることが叶いませんでした。毎日情勢が目まぐるしく変わっていく中で、これからの社会を予測できる人はいないでしょう。現在、日本をはじめとして世界中で新しい生活様式が求められ価値観も変化しつつあります。私たちは世界が変革する激流の真ただ中に立たされているのだと思います。けれども岐阜高校で様々な力を培われた先輩方なら、その激流を乗り切っていけると信じています。

先輩方、今まで私たち後輩を様々な面で導き、多くのことを教えてください本当にありがとうございました。先輩方のますますのご活躍とご健康を祈念して、私からの送る言葉とさせていただきます。

本日はご卒業、本当におめでとうございます。

答辞

卒業生総代

桜のつぼみが色づき始め、春の訪れを感じる季節となりました。本日は新型コロナウイルス感染症予防対策にご配慮いただき状況下にもかかわらず、このような式典を催していただきましたこと、卒業生を代表し、感謝を申し上げます。

3年前の春、私たちは晴れて岐阜高校に入学しました。憧れの桜の校章を制服の襟に付け、新たな友人との出会いに心を躍らせながら迎えた入学式の光景は、今でも昨日のことのように瞼の裏に焼き付いています。卒業を迎えた今思い返すと、岐阜高校で過ごした3年間はまさに光陰矢の如し、と形容する他に無いほどあっという間の3年間でした。

一・二年次の私たちの印象に残っていることといえば、やはり林間学舎と修学旅行ではないでしょうか。林間学舎では新たな友人と共に寝食、乗鞍登頂を経験し、修学旅行ではペーロン体験や長崎市内研修を行いました。そして岐高祭。岐高祭前の数週間は私たちにとって人生の中で最も密度の濃い期間だったと思います。文化祭では各々のクラスで驚くほどに完成度の高い企画が用意され、体育祭では応援団の圧倒的な演舞に全校生徒が熱狂しました。

また、こうした行事に限らず日常的な日々も、かけがえのない思い出です。時には意見をぶつけ合いながらも一生懸命に打ち込んだ部活動。空が暗くなるまで花を咲かせた放課後の数学論議。友人に影響を与え、与えられながら過ごした岐阜高校での日々が私たちの血肉となり、現在の私達を形成しています。

昨年6月、私は生徒会長に就任しました。本来であれば前期生徒会の大仕事といえば岐高祭です。しかし、今年度は、失われた私達の活躍の場を取り戻すことから始まりました。時間的にも追われていた私たちは、2週間で全校生徒にアンケートを取り、案を取りまと

め、なんとか開催の許可を取り付けました。結局、岐阜祭が開催されることはありませんでしたが、この目まぐるしく過ぎた2週間は間違いなく私を成長させてくれました。

思えば2020年は波乱の一年でした。新型コロナウイルスの影響はもちろん、受験を迎えた私たちは大学入学共通テストの度重なる変更により振り回され、そして大切な友人を一人喪いました。

不条理がはびこるこの一年、先行きの見えない毎日の中で私たちは様々な困難に直面してきました。現在、コロナバブルとも呼ぶべき実態を伴わない株価の上昇や、米中二大国の対立構造の激化、ミャンマーでのクーデターの発生など世界情勢は混迷を極めています。コロナ世代と呼ばれることになる私たちには今後も様々な困難が訪れるでしょう。しかし、かのアインシュタインもこう言っています。

「困難の中にチャンスがある」と。岐阜高校で3年間学んだ私たちならば、困難をチャンスに転化させることができるはずです。各々自分にしかない能力を持った私たちには、新たな世界を創り上げていく責務があります。他者と協力しながら、絶えず自己を研鑽し続けることで、一人では対処できない困難にも立ち向かっていかねばなりません。

さて、在校生の皆さん。私たちが大好きな校歌の歌詞に「国家の為に明け暮れ学ぶ」というものがありますが、国家ではなく、周りの人のためでも、自分のためでも良い、どんなに小さなことでも、学ぶという意識を常に持ち続けてください。学ぶことが自分の価値を高め続け、自らの未来を切り開くことにつながります。

最後になりましたが、授業や部活動など、様々な面で学校生活を支えてくださった先生方、18年もの長きにわたり、愛情を注ぎながら育ててくださった家族に感謝を申し上げます。そして、私の高校生活を彩ってくれた卒業生、在校生の皆さんにも私は感謝の気持ち

でいっぱいです。本当にありがとうございます。

今日、私たち卒業生はこの学び舎から新たな世界へと旅立ちます。岐阜高校卒業生としての誇りと、百折不撓・自強不息の精神を胸に、無限の可能性を秘めた私たちの人生を力強く歩んでいく決意をここに宣言し、答辞とさせていただきます。

◆■3月25日（木）

■終業式

皆さんのすばらしさ

校長 折戸 敏仁

いよいよ今年度も、今日を含めてあと7日となりました。今年度の自分の学校生活を振り返り、来年度へ向けた新たな歩みを始める時期ともいえます。

さて、今年度は昨年度から引き続き、年度当初から臨時休業が続き、皆さんの学校生活にも様々な制約がありました。そんな中でも皆さんは新たな生活ルールの中、すばらしい活躍を見せてくれました。また、卒業した先輩たちもそれぞれの進路目標を達成してくれました。

皆さんのすばらしさは、こうした状況の中でも自らの行動を整え、行動できることです。先日、本校を訪問された他校の先生は昼食時の皆さんの様子を見て、「きちんと前を向いて、話しもせずに昼食をとっているんですね。感心しました。」と仰いました。当たり前のことを当たり前に実行できる、これも大変すばらしいことです。特に今年度はICT機器が整備され、学習の形態も変化した部分があります。そうした環境に柔軟に対応し、それを活用している姿も頼もしく感じています。

一年次生の皆さんはあと約2年間の、二年生の皆さんはあと1年間の、本校での生活を充実したものとするため、すでに来年度へ向けてそれぞれの計画を立てていることと思います。それぞれがより一層、自分の目標の達

成へ向けて進んでいってくれることを期待しています。

最後になりますが、本校で3年間、皆さんの学校での活動を見て感じたことは、全力で学ぶ姿がすばらしい、挑戦する姿がすばらしい、特に今年度は、様々な制約がある中でもその中で楽しさを見出し充実した学校生活を送る姿がすばらしい、ということです。お互いがお互いのすばらしさを認め合っているから学校生活が充実し、より一層高いレベルへと向上していくのだと思っています。皆さんには、来年度も、全力で、のびのびと学び、探究を深め、それぞれの将来の希望をかなえるため挑戦し続けてほしいと思っています。

4月8日に元気な顔で登校してくれることを期待しています。

positive

進路指導部長 立川 喜教

3月1日に卒業式が終わり、三年次生の先輩たちが卒業しました。そして今日、一・二年次生は1年が終わり、4月からは次の年次へ進むことになります。今年も卒業された先輩たちは、東京大学をはじめ大変すばらしい進学実績を残しました。

一・二年次生のみなさんは、この1年間で振り返ってみていかがでしょうか。新型コロナウイルスの影響で、思い描いていた1年間にはなかったのではないかと思います。つらい思いをしたこともあったかもしれませんが、あの時こうしておけばよかった、もっと勉強しておけばよかった、などと後悔していることもあるでしょう。大変な1年間ではありましたが、一年次生も二年次生も、模擬試験の結果を見ると全体的に7月に比べて上昇している傾向にあります。ただ、各教科の分野別成績の中で見ると課題もあります。皆さんもそれぞれ、今年受けた模擬試験や定期考査を分析して自分の苦手分野を把握して、総合的な学力を身に付けられるようにこの春休みにしっかり学習に取り組んでください。

さて、私が時々聞いて学習しているNHKラジオ『実践ビジネス英語』の講師を34年間務め、この3月で退任される杉田敏先生がテキストの巻頭言で次のように述べています。

(あるレッスンで)『前向きな気持ち』の重要性を取り上げましたが、皮肉にもpositiveという言葉がnegativeな意味をもつようになってしまいました。positiveが「積極的な」「前向きな」ではなく、「(PCR検査などにおける)陽性の」という意味で使われるほうがずっと多くなってきたからです。かつては、落ち込んでいる人や弱気な人にBe positive! などと声をかけていたのが、そのように言うのもあまり良い激励ではなくなってしまいました。

このように新型コロナウイルスは、英語だけではなく、私たちが普段使う言葉にも影響を与えていますが、皆さんはどのような状況下でも自分の将来を見据えて、高い目標を掲げて努力を続けてほしいと思います。岐阜高校の仲間と切磋琢磨し、「前向きな」という意味でのpositiveで、1年または2年後の大学受験に向けて突き進んでください。来年度も皆さんの活躍を期待しています。

◆■3月25日(木)

■離任式

□ご退職・ご転任の先生(本校での勤務年数)

校 長	折戸敏仁 (3年) 退職
国 語	鷺見敦子 (8年) 退職
理 科	小野浩志 (10年) 退職
英 語	大橋聡子 (9年) 退職
教 頭	市川浩通 (2年) 関商工高校副校長
教 頭	下野宗紀 (1年) 教育総務課
国 語	林 美江 (4年) 多治見工業高校
地歴公民	石井宏明 (3年) 飛騨神岡高校
地歴公民	奥田元彬 (1年) 多治見高校
数 学	関谷 篤 (13年) 県岐阜商業高校教頭
理 科	岩田浩義 (2年) 大垣工業高校

保健体育	小澤友教（7年）	ねんりんピック推進事務局
保健体育	古川統英（5年）	関商工高校
英語	杉山晴美（13年）	学校安全課
英語	谷口皓哉（2年）	岐阜県商業高校
事務	大野博史（3年）	教育財務課
司書	加納裕美（2年）	岐阜総合学園高校

自ら求めて学ぶ

校長 折戸 敏仁

この3年間、岐阜高校で校長として勤務させていただきました。今年度末で定年退職を迎え、4月からは、滋賀県長浜市にある滋賀文教短期大学で准教授、図書館長として国文学などを教えることとなりました。

まずは皆さんのようなすばらしい生徒が活躍する、この岐阜高校で最後の勤務をさせていただけたことに感謝しています。

また、ここにいらっしゃる先生方を含め、これまで支えてくださった多くの方々にも感謝します。こうした方のおかげで今日まで働くことができたと思っています。

さて、今年度の入学式において、私は、自ら求めて学んでくださいと話しました。これは自分自身に向かって話していたのかもしれないと今になって思います。

私は大学時代、研究者となって大学で教えたいという思いがありました。その40年来の思いがやっと実現することとなりました。

新たなことへ向かうことへの心配は当然あります。しかし、やると決めました。これまでも、与えられたことから逃げないと決めて仕事に向かってきたからです。自分にそれほど力があるとは思っていません。だからこそ、これまで一つ一つの仕事に誠実に向かい合ってきました。また、そうした中でも常に忘れずにいたのは、こんな私を支えてくださる多くの方への感謝です。そうした方々へは感謝してもしきれない思いです。

これからは、次のステージでどのように社会に貢献できるのか、するのかを改めて考え

ながら、自ら求めて学んでいきたいと思います。

また、いつまで働くことができるのかは分かりませんが、これまで皆さんに話してきたことを改めて自分自身で実践していきます。

- ・できるだけ多くの本を読むこと。
- ・挑戦すること。
- ・体験を生きる知恵として行動に生かし、経験とすること。

4月からは岐阜高校を離れ、岐阜県教育から離れた立場で皆さんのこれからの活躍を応援しています。ありがとうございました。お世話になりました。

読書のすすめ

国語科 鷲見 敦子

この3月で定年退職を迎えることになりました。この8年間、母校である岐阜高校で過ごすことができ、本当に幸せでした。生徒の皆さんが、勉強にも部活動にも、その他の活動にも、常に全力で向かっていく姿に触れ、私もエネルギーをもらっていました。中でも一番感心していたのは、現代文の授業で、ハンナ・アーレントとかメルロ・ポンティという哲学者の名前が出てくると、すぐに図書館で関連する本を借りに来てくれる人がいることでした。知的好奇心に溢れる姿をすばらしいと思って見ていました。

岐阜高校を去るにあたって、私が皆さんに伝えたいのは、読書をしましょうということです。私は岐阜高校で過ごした8年間のうち、最近の5年間は図書館の仕事をしていました。読書の楽しみ、喜びを皆さんに伝えたいというつもっていました。最後に本の紹介をしたいと思います。

図書館は毎年『一燈』という推薦図書リストを配っています。私がこの学校に来た最初の年に紹介したのは、恩田陸さんの『夜のピクニック』でした。『夜のピクニック』は高校生が主人公で、皆さんが読んで共感できる部分がたくさんある小説だと思います。私の

ような年齢の人間が読んでも、自分が高校生だった頃を思い出し、しみじみと感動する話です。続いて、今年度紹介したのは、『ファクトフルネス』です。世界のことについて、いかに自分が昔得た知識で思い込んでいたかを気付かされ、情報や知識は常に更新していく必要があると強く思いました。そして、最近読んで面白かったのは、劉慈欣という中国の作家の『三体』という小説です。『三体』は3部作で、この『黒暗森林』は2作目にあたります。1作目は物理学の三体問題が登場し、文系の私には少し難しい内容でした。しかし、2作目は宇宙を舞台としたSF小説で、地球の運命やいかに、という終わり方をしており、3作目を今から楽しみにしています。

このように、読書からは感動や楽しみを味わえます。SNSなどでコミュニケーション能力を磨くのも大切だと思いますが、読書は本と自分で一对一の時間を過ごし、自分の思いと向き合えるものです。ぜひそんな時間を自分の生活の中に作ってください。岐阜高校図書館には3万冊以上の本があります。3年間で350冊以上読んで淘金賞をもらう人もいれば、3年間で読んだ本が数冊という人もいます。とてももったいないことです。ぜひ図書館を利用してください。読書をしてください。

最後に、私は定年を迎えますが、まだ教員としての仕事に魅力を感じていますし、体も健康なので、4月からは他の高校で勤務します。岐阜高校は去りますが、皆さんが様々な分野で活躍し、自分の進路希望を実現していくこと、そして将来は日本の各分野でその実力を発揮する人材となることを少し離れた場所から祈っています。

平凡な生活をしている誰かの新発見

理科 小野 浩志

大学三年生20歳のときに、物理教員となって剣道も続けることを決意してから40年。教員生活38年の間、理科教育と剣道部の指導を続けられたことを幸せに思います。

物理教師として皆さんに伝えたいことをお話しします。

□実演

○皿回し

岐阜市在住の小川順二氏に教えていただきました。

○Xジャイロ 紙バージョン

岐阜市在住の村田憲二氏が開発し、教えていただきました。

○エンゼルスウイング

岐南町在住の五島英明氏が改良し、教えていただきました。

○リングキャッチャー

青森県在住の野呂茂樹氏に教えていただきました。

○昇る試験管

ハンガリーのレイクバラトン在住、ウィバリ・シャンドール氏に教えていただきました。

○ストロー笛

岐阜市在住の長野勝氏に教えていただきました。

○ストロー笛トロンボーン

岐阜市在住の小野浩志氏が開発しました。

○フィルムケースオカリナ

宮崎県在住の長井昭三郎氏に教えていただきました。

○樹氷でキンコン

各務原市在住の加藤光二氏に教えていただきました。

○回折格子の傾きによる双曲線

岐阜市在住の小野浩志氏が開発しました。

私たちの住んでいる世界は、世界中の誰もが名前を知っているわけではない平凡な生活をしている誰かの新発見によって支えられている、ということに、物理教育に携わって気付きました。ほんの些細なことでも、そのことを新発見した人がいるはずです。

これから大学や社会でさまざまなことの最前線で働く皆さんは、まだ誰も知らなかった世界で初めてを開拓していくことになるでし

よう。皆さんの頑張りと岐阜高校の頑張りを、一市民として期待しています。さようなら。

岐高の魅力～これぞ岐高生

英語科 大橋 聡子

13,870日、一日一日の積み重ねでした。38年間という本当に長い年月、教員という一つの仕事をここまで続けてこられたのは、偏に周りの人、先生方・生徒の皆さんに恵まれたからだと思います。心から感謝しております。大過なく最後まで辿り着けそうだったということに、静かな幸せを感じています。

岐高での思い出はたくさんあります。その中で、これぞ岐高生だ、と感動した思い出を一つお話ししたいと思います。文化祭でのことです。

ご存知のように、岐高の三年生は例年、劇を上演します。私が担任したそのクラスも熱心に劇に取り組んでいました。夏休み前から準備はヒートアップし、いよいよ文化祭の本番直前、リハーサルの日がやって来ました。その日は休日で、朝一番に体育館でクラスのリハーサル、その後生徒たちは教室で最後の打ち合わせを行いました。私は仕事をしながら部屋で待っていました。それが、12時を過ぎて、2時になり、3時になっても、終わった様子はありません。どうしたのか、何をしているのだろう、そろそろ帰った方が良くないだろうかと教室をのぞきました。なんと生徒たちは熱く、熱く議論していたのです。そのテーマは「自分たちがこの劇で伝えたいことは何なのか」でした。劇はもうすでに完成しています。発表を待つばかりです。最後に必要なのは些細な調整や確認のみだと思っていた私は、この最後の段階に来て、原点に立ち戻り、議論を繰り広げる生徒たちの熱量と、物事の本質を突くその議論の内容に、思わず帰宅を促すのを忘れて聞き入り、これぞ岐高生と感動し、鳥肌が立ちました。

岐阜高校の魅力。それは、自分で考え、自らの意志で動き出し目標に向かって邁進する

生徒たち、その集団が作り出す未来への大いなる可能性、それを生み出す自由な校風、伝統ではないでしょうか。

思い起こせば様々なことがよみがえりますが、38年間、中でも最後の岐阜高校での9年間は、楽しい思い出ばかりが胸をよぎります。女優の樹木希林さんは、著書『一切なりゆき』のなかで

「教養」があることに感謝しながら生きています。いわゆる「教養」ではなく、「今日、用」がある、ということ。神様が与えてくださったこの「今日、用」を一つずつこなすことが日々の幸せだし、最後には十分に役目を果たした、自分をしっかり使い切ったという充足感につながるのではないかしらね。

と晩年語っておられました。私は、この3月に定年退職します。私の38年続いた「今日、用」は、ここで幕を下ろします。もう若くはない60歳の私ですが、今日が人生で一番若い日だと、毎日心から思っています。若い皆さんならなおさら、今日が人生で一番若い日です。毎日が新しく、チャレンジングですね。私も、ささやかで良いので新しいことに取り組み、今までとは違った「今日、用」を創り出したいと楽しみにしています。

38年間本当にありがとうございました。

お互いを認め合うこと

教頭 市川 浩通

生徒の皆さん。長くこの学校で生徒諸君を見てきた私から、皆さんに一つ、お願いをします。

現在、迷っていたり、自分を見失っていたりする人も多いように思います。人は他人と自分を見比べてしまいます。そして自分の弱さや至らなさばかり見てしまうと自信を無くし、自分を見失ってしまいます。一人で孤立し、大変寂しい思いをします。あなた方は本当にすばらしい才能を持っています。お互いに良いところを見つけ、お互いをリスペクト

すべきです。決して、人を低く見るのではなく、お互いをリスペクトしましょう。お互いを認め合うことで、お互いの自信を高めましょう。

お互いを称え合いながら、お互いを認めて良い友達を作り、良い人生を送っていきましょう。

時代の変化に対応できるしなやかで強い心を

教頭 下野 宗紀

私が勤務させていただいたこの1年間は、新型コロナウイルス感染症の影響が最も大きかった1年で、2ヶ月近い臨時休業に始まり、多くの学校行事が予定変更を余儀なくされるなど、学校生活が例年とは大きく様変わりしたものでした。そのような中でも、岐阜高校の生徒の皆さんの忍耐強く、でも確実に学びの歩を進める姿に心打たれました。私は皆さんとともにこの1年を過ごし、これからの新しい時代を生き抜く皆さんに“変化に対応できるしなやかで強い心”が育って欲しいと願っています。

多様化する社会の中で、皆さんが大学に進学すると、これまでとは学びの内容や方法、生活環境、人間関係が大きく変わると思います。下宿をする皆さんは、生活環境の変化も大きいことでしょう。でも、最も変わるのはおそらく学びの方法です。県下で最も伝統ある岐阜高校を卒業する皆さんは、高校段階までの学びの内容と方法においては優秀であったと思います。でも、少し厳しい言い方をすれば、だからといって皆さんが、大学で、そして社会へ出て、優秀で居続けられるとは限りません。では、学びの方法はどう変わるのか。大学は勉強ではなく研究するところですか。大学とは何か。それは究極的には、人間とは何か、自分とは何かへの問いです。そして、目前に横たわる様々な課題に対して、それを解決しようとする強い問題意識を持ち、仮説を立て、それを実験・検証し、結果の考察を通して解決に接近する、これこそが研究

と呼ばれる学びの方法です。

この学びの方法を、皆さんが本当に身に付けられた時、皆さんには“変化に対応できるしなやかで強い心”が芽生えていることと思います。ご活躍を期待しています。

新天地でも笑顔で

国語科 林 美江

初任から4年間、お世話になりました。ありがとうございました。岐阜高校では本当に貴重な経験をさせていただきました。

2年4組のみんな、私がバタバタしている時でも見守ってくれてありがとう。今年度、昨年度、これまで授業を担当したみんな、私の授業で吸収しようと意欲的に取り組んでくれて本当に嬉しかったです。その姿勢のおかげで、授業準備も頑張ろうと取り組むことができました。旧1年5組のみんな、三年生でどんなクラスになるか分かりませんが、出会った縁を大切にしながら明るく頑張ってください。部活動でかかわったソフトテニス、硬式テニス男子のみんな、真剣に、時には楽しそうに練習に取り組む姿が印象的でした。テニス経験のない私であっても受け入れてくれて、精神的に救われていました。

これから三年生になっていく皆さん、自分で限界を作らず、諦めずに取り組んでください。遠くからにはなってしまいますが、心から応援しています。皆さんと出会えた私は本当に幸せ者だと思います。

“感謝”の3年間

地歴公民科 石井 宏明

私は、岐阜高校で3年間勤務しましたが、この3年間は、充実している中にもいろんなことがありました。

1年目は、1,000人を超える全校生徒の前で落語をやることになりました。事前に用意していた落語とは別の落語を即席で披露した結果、小笑いという結果に終わったこと。2年目は、球技大会でバレーボールに参加した結果、左手の薬指を骨折し結婚指輪をはめる前

にギプスをはめる結果になってしまったこと。3 年目は、オンライン授業で埴輪愛を語り過ぎた結果、生徒と先生の間で温度差ができてしまったこと。これらはとても良い思い出です。貴重な経験をさせていただきました。

さて、皆さんにとってこの1年はどのような1年間だったのでしょうか。この激動の1年を振り返ってみると、オンライン〇〇、三密、リモート会議…など新型コロナウイルス感染症に関する言葉がはやった1年間だったと思います。その中で明るい話もありました。その1つが、『鬼滅の刃』の興行収入が日本1位になったことが挙げられると思います。『鬼滅の刃』とは、物語に出てくる鬼に立ち向かっていながら、主人公炭次郎が成長していく物語です。『鬼滅の刃』を通して、皆さんに伝えたいメッセージが2点あります。

1 点目は、継続して努力できる人間であれ、ということです。部活、勉強、学校生活、日常生活…何でも良いと思います。どんな困難があっても、自分を信じて頑張れる人であってください。

2 点目は、つらかったら休憩できる人間であれ、ということです。1 点目と矛盾するかもしれませんが、もしつらいことがあったら、立ち止まって深呼吸することも大切です。頑張る努力と休む努力の両方を大切にしてください。

最後に、初任で岐阜高校に来ましたが3年間みんなと過ごせて幸せでした。自分が赴任してきた時、一年生で入学した生徒が今年、卒業します。その子たちと一緒に卒業？ と表現して良いのかは分かりませんが、旅立つことができ、幸せです。加えて、現一年生は部活動、現二年生は日本史を中心に多くの場面で成長を見届けることができました。幸せでした。

皆さんのこれからの生活が幸せに満ち溢れることを祈りまして、離任の挨拶とさせていただきます。今まで、たくさんの成長の機会

を与えてくださり、ありがとうございました！！

「自力救済」と「一揆」

地歴公民科 奥田 元彬

こんにちは。突然ですが、30 秒時間をとります。隣同士で、日本の中世における「一揆」のイメージについて、話し合ってください。右の人からどうぞ。(30 秒)では、参ります。

前提として、中世は「自力救済」の時代でした。公権力の安全保障が望めない中、生き残るため、各人が奮闘するカオスな時代。ゆえに、戦いを生業とする武士という存在が台頭してくるのです。そして「一揆」。近世の百姓一揆のイメージに囚われていませんか？勿体ない！ 「一揆」とは、個人では達成困難な問題に立ち向かい、自らの利益や正義を実現せんがため、あらゆる階層の人々が、あらゆる場面で、強固な結束を形成したこと、またその集団、またその行動のことです。面白い！ と思った人は、是非調べてみてくださいね。さて、現在の世界は「自力救済」の風潮が一層高まっています。そうでなくても高校生の皆さんは、未来をこの手で切り拓かねばならない、人生における「中世」に生きているといえます。しかしそれは一人で生きているではありません。「自力救済」に「一揆」の精神が内包されていることを理解した時、世界は自分達の力で築いていくものだと気付けるはずです。

高校時代から「自力救済」を座右の銘とし、日本中世史の専攻であったにもかかわらず、長らくこの単純な事実を見落としていた私は、沢山のかけがえのない岐高生の皆さんとかかわり、素晴らしい先生方に支えられたこの1年でようやく両者が相反しないことを実感することができました。本当に感謝しています。そして何より、楽しかった。岐阜高校での時間は本当に楽しかった。ありがとうございました。最後に皆様のご健勝と岐阜高校のますますのご発展をお祈り申し上げて終焉といた

します。では、またいつかどこかで。

心雄々しく

数学科 関谷 篤

千韌の嶽 金華山

百里の水 長良川 ♪

今年はまだ歌われなくて残念でしたが、私はこの校歌が好きです。私見ですが、この校歌には岐高の DNA が含まれているのではないかと考えています。特に後半のフレーズ、

学海の波 荒くとも

希望の岸 遠くとも

華陽の健児 心雄々しく

百折不撓 つとめて止まず

では、目標を達成できそうになく諦めてしましそうな時にも、「心雄々しく」つまり暗く落ち込むのではなく、明るく前向きな強い意志で、何度でも成功するまで努力し続けるということを歌っているのだと思います。

岐阜高校の校訓、「百折不撓 自彊不息」がこの歌詞に含まれていて、その箇所がよくクローズアップされていますが、私はその前の「心雄々しく」が岐高の DNA の源ではないかと考えています。岐高生の皆さんは本当にすばらしい力を持っていますが、その力を発揮するためには、やはり心雄々しくなければなりません。今後、受験・就職・仕事などで上手くいかないことが多くあると思いますが、そんな時はこの校歌を口ずさみ、心雄々しく自彊不息して、いくつもの希望の岸に辿り着いてください。ご活躍を期待しています。

最後になりますが、岐阜高校で、すばらしい生徒の皆さんや教職員の方々と一緒に過ごしたこの 13 年間は本当に幸せな時間でした。感謝申し上げます。ありがとうございました。岐阜高校の皆さん、心雄々しく行動して、幸せになってください。これからも皆さんを応援しています。皆さんの力が、将来の社会に役立つことを楽しみにしています。

ありがとうございました。さようなら。

「好きなものは好きと言える気持ち」

理科 岩田 浩義

皆さんには、今自分がやりたいことや楽しい、嬉しいと感じること、喜びを感じることはありますか？ 自分が心から好きだと思えることはありますか？ その「好きだ」「これがやりたい」という気持ちを恥ずかしがらずに人に言うことはできますか？ あまり人には話したくない、自分の心の中にしまっておこうという気持ちもすごく分かります。ただ、岐高生は比較的、そうした自分の好きなこと、これがやりたいという気持ちを素直に表に出せる人、表現できる人が多いように感じますし、その気持ちや表現している友人を認め、受け入れられる人も多いように感じます。それは、とてもすてきなことだと私は思います。

私も小学生の頃からサッカーが好きで、サッカーとともにこれまでの人生を歩んできたように思います。もちろん、それだけをやっているだけでもダメな時もあり、自分が今何をすべきか、求められているのかについて、悩み苦しむ日もたくさんありましたが、これからは「サッカーが好きです」とずっと言い続けて自分の人生を歩んでいきたいと思っています。

私がサッカーを始めた当時にはやった歌があつて、その歌詞が好きで大人になった今でもそのフレーズを大切にしています。皆さんに紹介して私からの最後のメッセージしたいと思います。

どんなときも どんなときも

僕が僕らしくあるために

好きなものは好きと 言える気持ち

抱きしめてたい

どんなときも どんなときも

迷い探し続ける日々が

答えになること 僕は知っているから

(槇原敬之「どんなときも」)

ぜひ、皆さんの人生においても、「好きなもの」「幸せや喜びを感じるもの」を見つけて人生を豊かに送ってもらいたいと願っております。

では、皆さんさようなら。

効率よく

保健体育科 小澤 友教

7年間にわたりお世話になりました。ありがとうございました。

このたびの異動により、県に勤めることになりました。部活動の指導をしたくて教員という道を選びましたが、部活にかかわることができない場所になり、何をして良いのか分からないとともに、本当に寂しく思います。

普段から、皆さんには効率よくやろう、最善を尽くそう、臨機応変に対応しようと伝えてきましたが、これから私自身も新たな場所であることを頑張ります。

先生方、生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

「感謝」

保健体育科 古川 統英

新任として5年間お世話になりました。現二年次生は2年間担任として持ち上がり、楽しい思い出をたくさん作ることができました。ただ、卒業まで見送ることができなくて非常に残念な思いです。

保健の授業ではたわいもない話を食い入るように聞いてくれましたね。体育の授業では勝負の楽しさを一緒に分かち合うことができました。皆さんの授業に対する意識の高さには感心します。私も、もっと伝えられることはないのか、もっと良い授業ができるのではないのか、とたくさん考えました。本当にやりたいことをやらせていただきました。ありがとうございました。

これからは皆さんのことを近くで見ることができませんが、自分が思い描いた将来を叶えていってください。そのために私が大切にしていることは、決めたことと、やっていることを一致させることです。人は何かをやるときに自分でブレーキをかけてしまうことがあります。それは恥ずかしさであったり、他人からどう思われるのかという不安であったり

します。そのようなことでブレーキをかけるのではなく、自分がやりたいこと、自分で決めたことをやりとげてください。自分に嘘をついてはいけません。自分を信じてあげられるのは、自分です。だから自信がつくのです。

私も新天地で頑張りますので、皆さんも自分の思い描く未来を着実に叶えていってください。応援しています。が、部活で勝負する時は勝ちにいきますよ。

校歌の好きな一節

英語科 杉山 晴美

この度、13年間お世話になった岐阜高校を去ることになりました。岐阜高校に初めて来たとき、校歌の「国家のために明け暮れ学ぶ」の一節と、土足の古い校舎に驚きました。校歌については、岐阜高校の同窓生の方々が、いかに広く世の中のために貢献しておられるかを知れば、その意味が実感できたものです。今年度の5月に学校が休業だった時、オンラインの朝の点呼で、校歌の好きな一節について皆さんに尋ねました。結果は「百折不撓 つとめて止まず」が最多の310人でした。「国家の為に明け暮れ学ぶ」が2番目に多く221人、意外だったのが「学海の波荒くとも 希望の岸遠くとも」が3番目で73人でした。

仲間と切磋琢磨しながら、高い希望をもって、あえて容易ではない道を進んでいきたい、そういう皆さんの頑張る気持ちが、この歌詞への共感につながっているのかと、改めて気づかされました。そのような皆さんの姿を目にして、私は、教えるという立場でありながら、逆にいつも皆さんから大いに教えられ、やる気をもらってきました。皆さんの教室での何気ない会話に加わったり、将来の夢を語るのを聞いたり、そういう時間が本当に楽しかったです。岐阜高校という場で、素晴らしい生徒や職員の皆様とともに時間を過ごせたことに、感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございました。今後も皆様のご

活躍をお祈りしています。さようなら。

岐阜高校の2年間

英語科 谷口 皓哉

朝は寒く昼は暖かいといった春らしい気候になってきました。2年間という短い期間でしたが、私は岐阜高校で多くのことを体験し、学ばせていただきました。印象に残っていることを4点挙げさせていただきます。

1つ目は学習面です。岐阜高校の生徒は学習に対して本当にまじめで、自分のような新米の授業に対してでも一生懸命受けてくれました。その姿勢を見て、自分も頑張らなきゃなあと思い、日々授業の準備をしたのを思い出します。教科書の内容だけではなくプラスアルファで教材を用意してみたり、ある種試行錯誤な面もありましたが、ひたむきに取り組んでくれた姿が印象的でした。授業以外では、実力テストも印象に残っています。まだ受験生でもない段階の高校生には難しいであろう問題を出題しているにもかかわらず、その問題に対して思考をし、答えを導き出そうとしているのが解答用紙から伝わってきました。採点をする際に（これがもの凄く大変なのですが）、この生徒はこういう考え方をしたんだなあとか、こういう所が良くできているなあとか、中には模範解答より良い解答を作り出す生徒もいて、さすがは岐高生だなあと感じることもありました。

2つ目は部活動です。最初、進学校である岐阜高校がここまで熱心に部活動に打ち込んでいることに驚きました。一体いつ休んでいるのかと…。部活動によっては日本の枠を超え、世界規模で成果をあげている部活動もあり、驚きを隠せませんでした。私は縁あって吹奏楽部の顧問をさせていただきました。日々の練習や体制などを見てさすが岐高生だなあとと思う場面が多くありましたし、メジャーな部活動であるにもかかわらずアンサンブルコンテストで東海大会に出場するなどの成果をあげていることに本当に凄いなと思いました。

吹奏楽部で印象に残っているのは、演奏が終わった後の閉会式の結果発表です。自分の学生時代を思い出すあの独特の雰囲気と緊張感をまた味わえるとは思いませんでした。吹奏楽部の皆さんには感謝しかないです。ありがとうございます。

3つ目は文化祭です。岐阜高校に来る前から岐阜高校の文化祭はすごいよということを聞いていたので、期待をしていたのですが、その期待を良い意味で裏切るものを作り上げているのが素晴らしいと思いました。企画力やそのクオリティー、どれも高校生の域を超えたもので、内心感動すらしていました。今年度は新型コロナウイルスのせいで開催ができませんでしたが、来年度以降活気のある岐阜高校らしい文化祭が開催されることを願っています。

4つ目はなんといってもこの校舎です。公立高校とは思えない綺麗さと広さで、私はこの学校に来てから何度も迷子になりました。このような校舎で学べる皆さんが羨ましいです。通っているうちに慣れてきて当たり前になってくるかもしれませんが、今皆さんが通っているこの校舎は設備面で見てもすばらしい所なんだということを再認識してほしいです。

改めてになりますが、2年間本当にありがとうございました。皆さんはこの先各方面で活躍できるポテンシャルを秘めた人たちばかりです。岐阜高校で悔いのない高校生活を送り、日本のみならず世界に羽ばたいていてくれることを願っています。

みんなと一緒に過ごした日々

司書 加納 裕美

2年前、転任先が岐阜高校と聞き、生徒の皆さんと上手くやれるかなと不安に思っていました。しかし、その不安は、気さくに挨拶をしてくれる皆さんの姿によって杞憂に終わりました。皆さんの知的好奇心の高さというのか、図書館での様子を見ていると、こんな

に難しい本を読んでいるんだ、こんなに専門的なことに興味を持っているんだ、と感心する日々でした。これからもたくさんのことを学び、活躍してくれること期待しています。

図書館のみんな、頼りない顧問だったけど一緒に活動してくれてありがとう。部活の顧問が初めてで戸惑っていた私をやさしく迎えてくれた三年生のみんな、いつも仲良く楽しく活動してくれる二年生のみんな、しっかりしていてアイデア豊富な一年生のみんな、みんなと一緒に過ごした日々はとても楽しく充実したものでした。学校は離れますが、これからも応援しています。

最後になりますが、2年間無事に過ごすことができたのは生徒、職員の皆さまに支えていただいたおかげです。感謝を申し上げますとともに、皆様のご活躍をお祈りしております。ありがとうございました。

◆■3月25日（木）

■卒業生と語る会Ⅱ

今春大学に進学する卒業生から、高校在学中の生活や大学受験の状況を聞いて進路意識を高め、各自が取り組むべき具体的な課題設定をする機会になりました。

□概要

志望校合格を勝ち取った14名の卒業生から、この3月までの高校生活の様子を順に話をしてもらった。内容は、

- ①志望校を決定した時期やきっかけ
- ②学習方法
- ③一・二年次生のうちにやっていたこと
- ④部活動と勉強の両立について
- ⑤共通テストや受験会場の雰囲気

在校生からの質問にも丁寧に答えてもらい、実りある時間となった。

□参加した卒業生

東京大学文科Ⅰ類（2名）
東京大学文科Ⅱ類
東京大学文科Ⅲ類

東京大学理科Ⅲ類

京都大学文学部

京都大学法学部

京都大学工学部（3名）

福井大学医学部医学科

岐阜大学医学部医学科（2名）

京都府立医科大学医学部医学科

□生徒の感想より

- ・この会に参加するまでは、今の自分の学力を理由に最初の目標を諦めていた。合格した方々のお話を聞いて、やるべきことをやっていくことの大切さと目標に向かって努力することの大切さを再認識した。
- ・部活動を最後までやりきった先輩の話を聞いて、何事にも貪欲に取り組んでいくことが必要だと分かった。
- ・具体的な話を聞いたので、自分の学習のやり方を見直して、良いところを取り入れていきたい。
- ・今までまだまだ先のことだと思っていた受験が、実はもう始まっているのだと気づいた。毎日の学習を大切にしていきたい。

グローバルリーダー養成事業

◆■12月9日（水）

■職業・学問体験プログラム（芸術系）

〔講師〕

廣村 正彰 氏

（グラフィックデザイナー）

講演「デザインからデザインまで～ピクトグラムその機能とデザイン～」

〔日程〕

15：45～17：15 講演

17：15～17：45 質疑応答

〔参加者〕

一・二年次生希望者 46名

講師の廣村氏は、様々な施設、企業のサイ

ンデザインや、CI¹、VI²計画を多く手がけられ、東京 2020 スポーツピクトグラム開発に携わってこられました。それらの制作過程やピクトグラムの起源、それぞれの作品に込められた思いやこだわり、制作過程における苦労に加え、仕事と向き合う上での流儀についてもお話いただきました。

□講演の概要

1 東京 2020 スポーツピクトグラムの制作

東京 2020 スポーツピクトグラムは、1964年の東京五輪の際に公式に採用されたものをリスペクトする形で制作した。各競技の一番特徴的な場面やアスリートの輝く瞬間を表現することにこだわった。そのために、必ずアスリートの姿を入れ込み、アスリートの動きをより強調するために胴体を抜いて表現するなどの工夫を凝らして完成させた。しかし、東京 2020 スポーツピクトグラムは、デザイナーのアイデアのみで決まるのではなく、東京 2020 組織委員会や各競技団体との協議も必要となるため、何度も修正を重ねて完成した。

2 ピクトグラムの起源

統計で使う量などの数字を、絵文字を使って視覚的に表したアイソタイプ（国際絵ことば）が現在のピクトグラムの原型である。オーストリアの社会学者であったオットー・ノイラートが考案した。当時は識字率が低かったため、誰にでも伝わる共通の言語となるものが必要となりアイソタイプが開発された。そして、後にピクトグラムへ発展した。

3 歴代の五輪スポーツピクトグラム

それぞれの国の特徴が表されたものが採用されてきた。その国の古代文明や先住民族、または言語（書体）などの文化に関わるものや、都市機能に関連付けられたものなど、多様な発想に基づいている。

4 各企業、施設のサインデザイン

例えば自動車メーカーであれば「すべてのデザインは1本の線から生まれる。」、都心の水族館であれば「Sense+Knowledge」といったコンセプトが必ずある。各企業や施設にとってどのようなデザインが必要であるかというコンセプトを起点としてデザインが生み出されている。そして、利用者の立場に立ち、「何を伝えるか」ではなく、「どう伝わるか」という視点で考案していく。利用者が一目見て分かるという利便性に加え、見た人の脳が反応するサインを考えている。

□ 質疑応答

Q1: 様々なアイデアを生み出すための発想の転換方法はどのようなものか？

A1: 特別に発想を転換する意識はなく、サインデザインは全て人々の生活に根ざすべき存在であるため、人の動きや様々なモノをよく観察することを心がけている。

Q2: なぜ最近のデザインは丸みを帯びたものが多いのか？

A2: 単純な流行り、廃りといったものも当然あるが、それぞれの時代性に関わっていることもあるだろう。その時代ごとに求められるものは変わっていく。

Q3: サインデザインを制作する際、こだわりのあるコンセプトは他にもあるのか？

A3: すべてにコンセプトがある。求められているものや必要なものを突き詰めた上でコンセプトを考案し、デザインは生み出されていく。

Q4: 例えば放射性廃棄物が埋め立てられたような危険な場所があり、それを後世まで伝えていくために適した表現法はあるのか。

A4: 本来、サインデザインはない方が良い。危険な物質が残されているということ自体

¹ Corporate Identity の略。企業の特性を、統一されたビジュアルやメッセージで内外に発信し、共有してもらうことで、企業価値を高めること。

² Visual Identity の略。CI の構成要素の一つで、企業の視覚的な展開を統一させる活動のこと。

を問題にすべきである。本当は人が直接伝えていくべきで、それが不可能な時に初めてサインデザインが必要とされる。

Q5:サインデザインの道を志すようになったきっかけは何か？

A5:高校在学時、人とは違う仕事がしたいと思った。そこで自分が他人に勝れるものは何かと考え、デザインの道に進んだ。チャレンジはいつからでもできる。

Q6:進路に悩んでいる時はどうすべきか。

A6:目指すものに対して、道が一つだけであるとは限らない。工学部出身者がデザインに関わるなど、普通とは違った方面からアプローチをしていくのも発見があって面白い。

□生徒の感想より

- ・デザインは社会のシステムをも変えてしまうという言葉から、常に謙虚に探究し続ける姿勢が、本当の意味で良い作品を生み出すのだと思った。
- ・様々な道の進み方があるという話から、将来の夢が決まっていけないという悩みが晴れた。
- ・そのデザインを見た人がどんな感情をもつのか、そして誰のためにあるのかを考え、そこに思いを込めるのがデザイナーの仕事であると分かった。
- ・デザインは何も特別なものではなく、ただ「日常をデザインする」ものであると分かった。そして、そこに意義があることに気が付いた。

◆■12月11日(金)

■職業・学問体験プログラム(教育系)

〔講師〕

亀淵 裕 氏

(各務原市立鵜沼中学校教諭)

大野 玲子 氏

津田 行代 氏

(岐阜県立岐阜高等学校教諭)

中村 徹平 氏

(岐阜県教育委員会教職員課長)

伊藤 智裕 氏

(教職員課小中学校係課長補佐)

講演「岐阜高生のための教職説明会～現場の教師から話を聞く座談会～」

〔日程〕

15:40～16:20 教員の講話(3名)

16:20～16:30 教育委員会教職員課
担当者による説明

16:30～17:00 座談会

〔参加者〕

全校希望者 46名

本校出身の3名の教員をお迎えし、教員として働くということとはどのようなことであるのか、教職の魅力・やりがいについて、それぞれの体験をもとに貴重な話を聞くことができた。また岐阜県教育委員会の方からは、高校卒業後にどのような道筋で教員になることができるのか、具体的な進路選択肢について分かりやすく説明していただいた。座談会では様々な質問が飛び交い、現役教員から生の声を聴くことで、生徒にとってプラスの刺激となった。80分という短い時間ではあったが、今後の進路選択において参考になる有意義な会になった。

□生徒の感想より

- ・先生方のお話を聞いて、やはり自分も教員になりたいと思いました。教員になろうと思ったきっかけ、やりがい、感じている魅力など、それぞれの先生方の経験は様々ですが、どの先生方も強い想いをもち、生徒と向き合っているのだと改めて感じました。
- ・今回のプログラムは、私にとって、今まで参加した中で一番学ぶことが多くて、興味深いものでした。現場の先生方のお話を聞く機会はあまりなく、特に私は中学の教員になりたいので、中学校の先生のお話を聞いたのはとても貴重でした。
- ・まだ自分の進路をはっきりと決められたわ

けではないですが、どの職業に就くにしても、自分が相手を笑顔にするというコンセプトは魅力的だと感じています。ほぼすべての職業が、誰かを幸せにするのが目標だと思うけれど、私の場合は“直接”目の前の人を笑顔にするということが大切だと思っており、教員という仕事は、自分が作った製品で人を笑顔にするという“物の介入”ではないことがはっきりと分かりました。

- ・講話を聞いて、先生方は普段から本当によく児童・生徒のことを考えて、日々勉強しながら取り組んでおられるということが伝わってきました。先生だからと言って偉そうにするのではなく、生徒と同じ目線に立って、生徒と同じように学ぶ姿勢を持つことが大切なのだと分かりました。
- ・子どもの可能性は無限大であるので、その可能性を信じていることを教員が自分自身で示していけば、いずれその思いがクラスの雰囲気になっていくという話をされました。この話を聞いて、自分の小・中学校時代を振り返ることができました。

◆■12月16日（水）23日（水）

■最先端科学体験プログラム（技術社会系）

〔講師〕

岩本 吉則 氏

太刀川 友凜 氏

（岐阜かかみがはら航空宇宙博物館）

講義「岐阜県の航空宇宙産業」

実習「ozobotを使ったプログラミング」

〔日程〕

12月16日 13:00～16:10 講演

23日 13:30～15:50 実習

〔参加者〕

一・二年次生希望者 37名

（講演のみ参加 10名）

元中日本航空専門学校教員の岩本氏より、岐阜県の航空宇宙産業についてご講演いただきました。

□講義の概要

日本国内には97の空港があり、岐阜県は空港のない1府8県のうちの一つです。しかし、飛行場は各務原にあり、現在は航空自衛隊岐阜基地の飛行場として運用されています。この地は縄文海進の時代に木曽川の河口があり、御嶽山の噴出物が堆積してできた土地です。そのため土地は痩せており農耕には向かなかったのですが、平坦な土地であったため日本陸軍の大砲演習場でした。それが第一次世界大戦後の1917年に航空機開発のための飛行場として開設されました。こうして川崎造船所の航空機組み立て工場が建設され、現在の川崎重工業につながります。飛行機の研究開発基地となったこの地は、戦時中には大きな空襲に遭い、戦後は航空機の生産はできなかったためバスや自動車などの金属部品を作って航空産業の再開を待っていました。1952年に航空産業が再開されますが、戦後の7年間で航空技術は世界から大きく遅れてしまいました。その後、ライセンス生産や防衛航空機の生産で技術を蓄え、今では世界中の航空宇宙産業に部品供給で大きく貢献しています。新型コロナウイルスの影響で予測は変わりましたが、今後10年で東アジアを中心に航空機の需要が高まると予想されていました。

宇宙産業でも、中部地域は大きな製造拠点です。日本が飛ばす宇宙ロケットは、愛知県で開発と製造が行われており、その部品は岐阜県を含むこの地域で生産されています。その結果、岐阜県の航空宇宙産業の事業所数は全国2位で、出荷額も全国3位です。

現在の航空機は自動化が大きく進んでいます。航空機を安全に飛ばすためには高度な操縦技術と複雑な運行管理が必要です。大西洋単独無着陸横断を初めて成し遂げたリンドバーグの時代では、33時間もの間、夜間も含め、目視とパイロットの勘、機体トラブルに遭わないという運によって飛行していました。それが、各種センサーによるデータ収集とそれ

に基づくプログラムによって自動操縦が可能となり、現在の安全な空の旅につながっているのです。皆さんには、そのプログラミングの体験をしていただきます。

□実習

講義の後、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館の太刀川氏より、プログラミング実習の概要説明と、簡単な実習がありました。

参加生徒は、実習までの1週間、放課後等を利用し、実習に利用するプログラミングロボット「ozobot」を使い、プログラムの読み方とロボットの走らせ方を練習し、実習に備えました。

23日の実習では、「配達」を題材に、地図上の配送センターと各家庭の間を様々な課題をクリアしながら荷物を配送するプログラムを制限時間内に作成し、最後にチーム対抗で競技会を実施しました。プログラミングロボットの「ozobot」は、あらかじめプログラムされた動きを、地図上に張られた赤・青・緑・黒を判別しその並び順で指示されたコードに従って再現します。6人で1チームとなり、当日発表された課題に対し最適なプログラムを地図上にコードし、それぞれの課題に対する得点で順位を競いました。

競技会では、無事課題をクリアしゴールするチームもあれば、コードをしっかりと読めず迷子になったり、一方通行を逆走して大幅減点されたりなどのトラブルもあり、歓声と笑いが起こっていました。

□生徒の感想より

- ・岐阜県の航空宇宙産業が発達していることを知って驚いた。
- ・戦前から続く人々の努力があったからこそ、今の航空機産業の技術的波及効果が大きくなっているのだと思った。
- ・プログラミングの競技では、失敗してもやり直せるが、人に使うとなれば失敗が許されないので、プログラミングには責任があると思った。

- ・コンピュータ内のみのプログラミングは指示通り実行するが、現実とリンクさせるプログラミングでは不確定要素が多くあり、非常に難しいことを実感した。
- ・ozobot がうまく反応してくれず苛立ったが、他の生徒がうまくいかなくても動きを観察して解決しようとしていて、見習わなければならないと思った。